

表紙, 目次, 雑纂, 漫録, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38349

明治四十五年六月一日發行

十全會雜誌

第七十卷
第六號
(第七十七號)

全澤醫面學專門學校十全會

十全會雜誌(第十七卷第六號)目次

○原著及實驗

●同一家屋ニ於テ人百斯篤ト驢百斯篤ト爆發的ニ發生セル一例。

大阪府防疫官 松王數男 一

○雜纂

●脂肪染色。京都醫科大學解剖學教室 岡島敬治 六
●解剖學術語統一急務。石川喜直 一四

○漫錄

●吊小野太三郎氏。川島俊 二五

○通信

●四年級々會永平寺へ。●第六回陸上運動會。●運動會餘筆。●第六回香林會大會。●春季弓術大會記事。●安藤金澤藥學士送別會。

○校內雜報

●鬼頭先生通信。●森田齊次氏通信。●小山田基氏通信。●福田美明氏通信。●阿波加憲吉氏通信。●田中信一氏通信。●石澤太作氏通信。●寺尾敬三氏通信。●土井榮幸氏通信。●福田美明氏通信。

○叙任及辭令

●宮内省。●金澤醫學專門學校。

○人事

●高野宗重氏。●齋藤友一氏。●加瀬順之助氏。●小幡一志氏。●居所不明者宮井勇氏。

○會告

●校外特別會員會費領收調書。



此ノ驢馬ヨリ感セルモノ、如ク二十六日肺「バスト」ニヨリテ死亡セリ
 然ルニ第一ノ驢ト共ニ上陳ノ苦力ニ飼養サレシ第二ノ驢ハ二十八日ニ
 至リテ肺百斯篤ニ罹レリ此ノ場合ニ於テ潜伏期ヨリ考フレハ第二ノ驢
 ハ第一ノ驢ヨリ感染セリト云フヨリハ中間ニアル苦力ヨリ感染シタル
 モノト認ムルヲ寧ク穩當トスヘシ、果シテ然カラハ驢ハ人ヨリ病毒ノ
 感染ヲ受ケ又タ能ク人ニ感染セシムルモノト云フヘシ

余ハ奉天並ニ撫順ニ於ケル二例ヲ推シテ人驢ノ間ニ肺百斯篤ノ傳播ヲ交
 換シ得ルモノト信スルノ一人ナリ、而シテ人驢間交互ニ病毒ヲ傳染セシ
 ムルトセハ爰ニ豫防上重大ナル問題ヲ惹起シ來リ滿洲ノ如キ驢馬ノ使役
 殊ニ屋内使役ノ多キ土地柄ニアリテハ肺百斯ノ流行時ニ之カ取締ヲ嚴ニ
 シ場合ニヨリテハ人モ驢モ全一ノ規定ノ下ニ措置セサル可カラサルノミ
 ナラス同シク之カ流行時ニ際シテハ獸醫師ガ從來ノ態度ヲ一變セサル可
 カラス

四、試験用動物ヲ得ルコト困難ナリシカ爲メ多クノ階級ニ於テ實驗シ能ハ
 サリシモ人並ニ驢ヲ侵セシ百斯篤菌毒力ハ當時確ニ二十萬分ノ一白金耳ヲ
 以テ能ク「マウス」並ニ「モルモット」ヲ斃セリ、即チ從來報告セラレタル
 腺「バスト」菌毒力ニ比シ強クトモ決シテ弱キモノニハアラスト謂ヒ得ヘ
 シ(完)



雜纂

● 脂肪染色

京都醫科大學解剖學教室 岡 島 敬 治

組織學ニ應用セララル、脂肪質ノ鑑識法ハ、從來他ノ組織學的方法ニ比シ
 極メテ少數ニシテ、加之學者ノ注意ヲ惹クコト大ナラザリシガ、學術ノ進
 運ハ近來著シク此領域ニモ影響ヲ及ボシテ、現今甚ク數多ノ脂肪染料ト多
 様ノ染色方法發見セララル、ニ至レリ。即チ今ヨリ約十五年前ニアリテハ、
 脂肪組織ノ研究ハ主トシテ「オスミウム」酸ト、天然ニ來ル植物性ノ「アル
 カンナ」根丁幾トニヨリナサレタルモ、亞仁林色素ノ應用ハ他ノ組織學的
 染色法ト共ニ脂肪染色法ニモ大ナル發達ヲ來サシメ、現時脂肪色素ノ數急
 遽ニ増加セリ。尙ホ最近種々ノ金屬ヲ媒介トシテ色素トノ「ラック」結合ヲ
 成サシムル方法、及ビ固定液又ハ其他ノ中間液ニヨリ軟ク溶解スベキ脂肪
 質ヲ一定ノ方法ヲ以テ不溶解性物質ニ變セシメ、後コレヲ脂肪色素ニヨリ
 染色スル方法等發見セラレタリ。

本篇ニ於テハ、現時ニ至ルマデノ脂肪染色ニ關スル事柄ノ概要即チ染色
 ノ理論、染料及ビ最モ多ク應用セララル、染色法ニ就テ簡單ニ抄述スルト
 コロアラントス。

- 一、無機化合物ニヨル脂肪染色
- 二、天然有機性色素ニヨル脂肪染色

三、人工有機性色素ニヨル脂肪染色

四、其他ノ方法ニヨル脂肪染色

一、無機化合物ニヨル脂肪染色

古來脂肪染色ニ用ケラル、無機化合物ニハ只一種アルノミ。「オスミウム」酸コレナリ。

「オスミウム」酸

「オスミウム」酸 Osminisäure Os O₄ (又四酸化「オスミウム」 Osmintetroxyd) 過「オスミウム」酸 Ubersosminisäure、過「オスミウム」無水酸、(berosminanhydrid) ハ無色稜柱狀ノ結晶ニシテ、其蒸氣ハ特異ノ刺激ガ如キ臭氣ヲ有シ烈シク粘膜ヲ刺激ス。通常「オスミウム」酸ト稱セラル、モ酸ノ性質ヲ具フルコトナシ。其溶液ハ酸性ヲ呈スルコトナク又鹽ヲ作ラズ。其水溶液ハ還元作用ヲ有スル物質、例ヘバ有機質又ハ日光等ニヨリ還元セラレン、黑色ノ金屬「オスミウム」ヲ析出ス。

「オスミウム」酸ハ千八百六十四年、F. E. Schulze 氏ノ獎勵ニヨリ、M. Schulze 及 Yu. M. Rudneff 氏ニヨリテ始メテ顯微鏡術ニ應用セラレタリ。

「オスミウム」酸ト脂肪質トノ關係

「オスミウム」酸ガ脂肪質ニ對シテ反應ヲ現ハスハ、ソレト結合シテ還元セラレン、黑色ノ金屬「オスミウム」ヲ析出スルニ因ル。Bristol 氏ハ四酸化「オスミウム」ハ有機質ニヨリ還元セラレンニ酸化「オスミウム」Os O₂ トナルト云フ、Starke 氏モ Bristol 氏ト同説ヲ唱ヘタルモ、Michaëlis 氏ニヨルニ現今ノ化學書ニシテ Os O₂ ノ存在ヲ記載セルモノアルヲ見ズト云フ (余ハ記載シアルヲ見タリ)。

Altmann 氏ハ種々ノ脂肪質ト「オスミウム」酸トノ關係ヲ研究シテ、四酸化「オスミウム」ハ只油脂ト油酸ノミニ作用シテ、コレニヨリ還元セラレント雖ドモ、其他ノ脂肪質例ヘバ軟脂、硬脂及ビ其酸ニ逢フテ還元作用ヲ起サズトノ結果ヲ得タリ。油酸那篤論ノ如キハ酸ヲ加ヘテ遊離ノ油酸ヲ生ゼ

ジムル時ニノミ還元セラルト云ヘリ。

又同氏ハ「オスミウム」酸反應ニ際シテ生ズル、脂肪ノ全顆粒 Vollkörner 及ビ輪狀顆粒 Ringkörner ノ形成ニ就テ次ノ説ヲナセリ (全顆粒トハ脂肪顆粒ノ全部悉ク「オスミウム」酸ニ反應シテ黑色ヲ呈スルモノ、輪狀顆粒トハ只其周層ノミ黑變シ、内部(中心)ハ染色セザルモノヲ云フ。而シテ此不染性中心ハ時トシテ中心性ニ、時トシテ偏心性ニ位ス)。輪狀顆粒ハ先ヅ二種ノ異ナリタル物質ヲ含ム。共ニ「オスミウム」酸ニヨリ黑變セラルベキ性質ヲ有ス。一ハ顆粒ノ中心ニ位シ、「オスミウム」酸作用後モ亞爾箇保爾ニ溶解スル性質ヲ有シ、他ノモノハ之ニ反シテ外圍ニ位シ全ク溶解セズ。シカモ「オスミウム」酸ニヨリ黑變セラルベキモノハ既ニ述ベタル如ク、只油酸ト油脂アルノミナルヲ以テ、輪狀脂肪顆粒中ニハ此二種ノ物質ガ異ナリタル狀態ニ配置セラル、モノト見做サルベカラズ。即チ顆粒ノ中心ニハ他ノ脂肪質ト共ニ主トシテ油酸存シ、周圍ニハ油脂存在ス。

Starke 氏ハ脂肪ニ關シテナシタル精細ナル研究ノ結果次ノ成績ヲ得タリ。「オスミウム」酸ヲ直ニ還元シテ、第一期的 (prima) 黑色全顆粒ヲ作ルモノ、例ヘバ油酸及ビ油酸ニシテ、他ハ「オスミウム」酸トハ結合スルモ還元セズ、含水亞爾箇保爾ヲ作用セシメテ第二期的 (sekundär) 黑色全顆粒ヲ作ルモノ、例ヘバ軟脂、硬脂脂肪質コレナリ。甲ノ場合チ脂肪「オスミウム」還元 Fettsäuren-Reduktion ト云フ、乙ノ場合チ亞爾箇保爾「オスミウム」還元 Alkoholsäuren-Reduktion ト云フ。此第二ノ作用ノ起ルハ、脂肪ハ亞爾箇保爾ニ對シテハ他ノ組織ニ比シテ分子間ノ交流ヲ許容スルコト強キヲ以テ、亞爾箇保爾ハ「オスミウム」酸ヲシテ脂肪分子内ニ侵入スルヲ補助シ、從テ「オスミウム」酸ノ軟ク其作用ヲ遲フシ能フニ因ルモノト見做スベシ。

尙ホ同氏ニヨルバ、亞爾箇保爾度ノ強弱ハ「オスミウム」酸ノ脂肪ニ對ス

ル作用ニ差異ヲ生セシム。即チ弱度ノ亞爾簡保爾ヲ用キテ時ニノミ顆粒全部ノ黑變ヲ來スモ、強度ナル時ハ(無水亞爾簡保爾)脂肪溶解作用ノ之ニ伴フアルヲ以テ其黑變ハ一部ニ止マリテ輪狀顆粒ヲ作ラシムルニ至ル。

然ルニ Handwerk 氏ハ硬脂酸ハ Stearic 氏ノ見タル如ク、亞爾簡保爾

「オスミウム」還元ニヨリ黑變セザルヲ見、精査ノ結果 Fatche 氏ノ用キタルモノハ不晶ノ硬脂酸ナルコトヲ確メ、氏自己ノ檢セシ純粹ノモノト異ナルヲ知リテ次ノ結論ニ達セリ。即チ化學的純粹ノ軟脂酸、硬脂酸及ビ其「グリセリド」ハ「オスミウム」酸ヲ還元セズ。只油酸ト油脂ノミ之ニ作用ス。而シテ油酸モ凝固スレバ還元スルコトナシ。

亞爾簡保爾「オスミウム」還元ノ原因ニ就テ Michaelis 氏ハ曰ハク。脂肪質ハ溶解セル狀態又ハ其熔融温ニ近キ軟キ狀態ニ於テノミ染色セラル、モノニシテ、通常此性質ヲ有スルハ油脂肪質ノミナリ。故ニ脂肪質ノ「オスミウム」酸ニ對スル特異ノ反應性ハ、其分子ノ特殊ノ性質ニ因ルモノニアラズシテ、只其半流動ノ性質ニ原ヅクモノナルベシ。而シテ亞爾簡保爾ハ此意味ニ於テ、脂肪ノ溶解料又ハ膨脹料トシテ作用シ、カクテ流動性トナリタル脂肪ハ始メテ「オスミウム」酸ニ反應スルモノナルベシ。

Ielermann 氏ニヨレバ「オスミウム」酸ハ脂肪ノ外ニ亦、格魯謨ヲ働カシメザル皮膚ノ色素細胞ニヨリテモ還元セラル。格魯謨ヲ用キタル材料例ヘバ Fleming 氏液(後條ヲ見ヨ)ヲ以テ固定シタルモノニ於テハ該色素ハ其還元性ヲ失フト云フ。

又同氏ニヨレバ「オスミールン」シタル(「オスミウム」酸ヲ作用セシメタル)切片ヲ一定時粗製又ハ稀釋セル木醋中ニ浸ス時ハ、其還元作用著シク催進セラルト。

「オスミウム」酸ハ脂肪以外ノ有機質例ヘバ鞣酸ヲ含ム物質ニヨリテモ還元セラル、コトハヨク知ラレタル事實ナリトス。

Golodetz 氏曰ク。「オスミウム」酸ハ脂肪、脂肪酸ノミナラズ、又石鹼ニ

モ作用ス。而シテ其還元ハ主トシテ脂肪酸ノ未飽和ノ性質ニ因ル。即チ油酸「エステル」ノ存在ハ常ニ其主ナル要素タリ。

「オスミウム」酸ガ還元セラルルレバ脂肪酸ハ其酸素ニヨリ酸化セラルベシ而シテ茲ニ生ズル產物ノ何ナルヤハ尙ホ研究セラレズ(Michaelis 氏)。

「オスミウム」酸ノ特性

「オスミウム」酸ハ油脂肪、神經髓鞘、乳小球等ヲ黑色ニ染ムルモ、亦脂肪質以外ノモノニモ作用ス。例ヘバ鞣酸含有質ニヨリテモ還元セラル。同時ニ種々ノ組織ノ天然色ヲ酸化變色セシム。例ヘバ細胞核ヲ汚黃色、筋、彈力纖維ヲ灰褐色トナスガ如シ。以上ノ理ヨリシテ「オスミウム」酸ヲ絕對的ノ脂肪染料ト見做スコトヲ得ズ、疑ハシキ場合ニハ必ズ他ノ方法(天然又ハ人工有機性脂肪色素ニヨル染色)ヲ併用シテ鑑識セザルベカラズ。

「オスミウム」酸ハ油脂含有脂肪ニハ直接ニ働クモ、軟脂及ビ硬脂脂肪質ニハ高温ニ於テカ又ハ常温ニ於テモ「オスミールン」シタル後、亞爾簡保爾中ニ致シタル時反應ス。

木醋又ハ單寧酸ハ「オスミウム」酸ノ脂肪ニ對スル作用ヲ催進ス。

「オスミウム」酸ニヨリ黑變シタル脂肪ハ亞爾簡保爾、呀囉仿謨等ヲ用キタル後、巴拉質又ハ「ツエロイザン」中ニ包塞シ、後拔爾撒謨中ニ緘包シ得、コレ他ノ脂肪染料ニ優ル點ナリトス。

「オスミウム」酸ノ作用ハ強烈ニシテ、細小ナル組織片ニアリテハ殆ンド瞬間的ニ働クト雖ドモ、深ク組織内ニ侵入スル力弱シ。即チ大ナル組織塊ニアリテハ其表面十分ノ一乃至一耗ニ作用スルニ止マル。且ツ同時ニ表面ノミヲ過固定スル傾アリ。又「オスミウム」酸固定ノ材料ハ後染色ヲ著シク困難ナラシム。

「オスミウム」酸ノ用法

上述ノ如ク「オスミウム」酸ハ有機質及ビ光線ニ觸レテ易ク還元スルヲ以テ、常ニ清潔ナル黃色又ハ黑色ノ瓶中ニ貯フベク、其使用ニ際シテモ操作

ハ常ニ暗中ニ於テスルヲ良シトス。

「オスミウム」酸ノ還元ヲ防グニハ種々ノ方法アリ。次ノ如シ。

一、過満俺酸加里ヲ鮮薔薇紅色ヲ呈スルヲ度トシテ其溶液中ニ加ヘ、褪
色スルニ從ヒ添加ス (Cohn 氏)。

二、「オスミウム」酸ノ三倍量ノ沃度酸那篤留謨 (Na₂O) ナ加フ (Br-
sch 氏)。

三、一%ノ格魯謨酸液中ニ溶解シタル二%ノ「オスミウム」酸ハ還元スル
トナシ (Lee 氏)。

四、一%ノ「オスミウム」酸百呎ニ飽和 (五%) 昇汞水ノ約十滴ヲ添加ス
(Mayer 氏)。

既ニ一旦還元シタル「オスミウム」酸ハ一定度マテハ酸化、セシメテ更ニ使
用シ得。其方法次ノ如シ。

一、過酸化水素カ (Bristol 氏)。

二、明礬粉ノ少量カ (Kolossow 氏)。

三、食鹽ヲ加フ (Mayer 氏)。

「オスミウム」酸ハ種々ノ濃度ニ於テ使用セラル。通常用キラル、モノハ
多クハ〇・五乃至一・〇及ビ二・〇%水溶液ナリ。

其作用時間ニモ甚ダシキ差異アリ。單一ナル細胞ノ一乃至二秒時ヨリ大
ナル組織片ノ數日間ニ至ル。

「オスミウム」酸、Ranchering、Hansen 氏ニヨリ始メテ推奨セラ
レタル方法ニシテ、壞底ニ僅少 (一乃至二滴) ノ「オスミウム」酸ヲ滴下シテ
材料ヲ糸ヲ以テ上ヨリ懸垂シ、直接液ニ觸レシメズ、其蒸氣ノミヲ作用セ
シム。壞ハ硝子鐘等ヲ以テ覆フ。

固定シタル後ハ目的ニヨリ差アルモ、多クハ二十四乃至四十八時間流水
ヲ以テヨク洗滌シテ、八十五乃至九十%ノ亞爾箇保爾中ニテ暗中ニ貯フ。
水洗シテ過剩ノ「オスミウム」酸ヲ去ルコトハ、脂肪ノ研究上特ニ必要ナル

條件ナリトス。コソ餘分ノ「オスミウム」酸ガ後ニ還元黑變シテ著シキ妨害
ヲナシ、容易ニ觀察ノ誤謬ヲ惹起スルヲ以テナリ。

「オスミールン」シタル脂肪質ノ、種々ノ中間液ニヨリ溶解スルヤ否ヤニ
就テハ甚ダ數多ノ研究アルモ、概シテ「テレベンチン」油特ニ日光ニ觸レ
巽化シタルモノハ溶解力強ク、「キシロール」、呀囉仿謨及ビ丁香油、「ツエ
テルン」油、寒冷ナル偏陣、石油依的兒ニハ溶解比較的困難ナリト云フ。故
ニ標本ヲ緘包スルニハ呀囉仿謨、拔爾撒謨、「コロフオニウム」偏陣、流動
巴拉賓等ヲ以テスルヲ安全ナリトセラル。

以上ノ理ニヨリテ、一旦還元黑變シタル「オスミウム」酸ヲ褪色セシムル
ニハ二様ノ方法アリトイフベシ。一ハソチ溶解セシムルモノニシテ、一ハ
再酸化ニヨルモノコソナリ。甲ハ特ニ阿巽化シタル「テレベンチン」油ニヨ
リテ、乙ハ過酸化水素又ハ格魯兒金ニヨリテ行ハル。

「オスミウム」酸ノ作用ヲ補助シテ還元ヲ遲シクセシムルモノヲ其還元料
ト稱ス。亞爾箇保爾、蔘酸含有ノ亞爾箇保爾、「メチール」亞爾箇保爾、芳
香亞爾箇保爾例ヘバ焦性沒食子酸、沒食子酸、單寧酸其他粗製木醋等コソ
ナリ。

次ニ最モ多ク用キラル、「オスミウム」酸使用法ノ二三ヲ擧ゲン。

第一法

一、十%ノ「フカールマリン」硬化。

二、凍互法截片製作。

三、一乃至二%ノ「オスミウム」酸又ハ Fleming 氏液 (一%ノ格魯謨
酸十五容量、二%ノ「オスミウム」酸四容量、氷醋酸一容量) 中ニ入レ二十
四時間暗所ニ置ク。

四、根本的水洗。

五、徧里設林緘包 (ラック) 封着又ハ徧里設林阿膠緘包。

第二法

- 一、一乃至二%ノ「ガスミウム」酸又ハ Fleming 氏液(前出)又ハ Hermann 氏液(一%)ノ格魯兒白金水溶液十五容量、一%ノ「ガスミウム」酸四容量、水醋酸(一容量)又ハ Marchi 氏液(Miller 氏液)二乃至二、五瓦重格魯誤加里、一瓦ノ硫酸那篤留誤、百瓦ノ水(二容量、一%ノ「ガスミウム」酸(一容量)中ニテ二十四時間暗中ニ固定)。
- 二、二十四時間流水ニテ根本的洗滌。凍法截片。
- 三、無水亞爾簡保爾ニテ截片ヲ脱水ス。
- 四、丁香油又ハ「キシロール」ニテ透明トシ。
- 五、純「カナダ」拔爾撒誤中ニ緘包ス(豫メ輕ク温ムルヲ良シトス)。

第三法

- 一、第二法ノ一、ト同様。
- 二、數日間無水並爾簡保爾中ニテ硬化。
- 三、巴拉賓緘包(丁香油、丁香油巴拉賓、巴拉賓、刪截)。
- 四、巴拉賓ノ除去ニハ丁香油ヲ用キ。
- 五、「カナダ」拔爾撒誤中ニ緘包ス。

第四法

- 一、一、二、第三法ノ一、一、二、ト同シ。
- 三、豫メ亞爾簡保爾依的兒中ニ入ル、コトナク直ニ稀薄ナル「ツエロイザン」液中ニ一日、次テ其濃液中ニ一日。
- 四、刪截。
- 五、丁香油、丁香油ハ同時ニ「ツエロイザン」ヲ溶解ス。又ハ「キシロール」。
- 六、「カナダ」拔爾撒誤。

後染色

凡テ「ガスミウム」酸ヲ用キタル材料ハ後染色ヲ著シク困難ナラシムルモノナルコトハ既ニ述ベタリ。Fleming 氏液ニハ「サフライン」最モ良

シ。其他 Heilenbain 氏ノ鐵「ハマトキシリン」、「ピクロカルミン」等用キラル。

二 天然有機性色素ニヨル脂肪染色

天然ニ發見セラル、有機化合物中ニテ從來我組織學上最モ多ク脂肪染色ニ用キラル、モノハ「アルカンニン」ナリ。其他葉綠素、「プロチギカジン」、「リボクローム」等ノ色素アルモ應用セラル、コト稀ナリ。最近余ハ蕃椒ノ果皮ヨリ橙紅色ノ色素(蕃椒紅)ヲ浸出シ、脂肪染色ニ試用シテ其効ノ著シキヲ見タリ。

(一) 「アルカンニン」

「アルカンニン」 Alkannin $C_{15}H_{14}O_4$ ハ紫草科ニ屬スル Anchusa (Alkanna) tinctoria (牛舌草) 一種ノ根ヨリ製シタル染料ニシテ、古來脂肪染色ニ應用セラル。此根ノ浸液ハ蒸餾シテ濃稠ナル赤色液トナシ得。主トシテ西班牙、希臘、南部佛蘭西等ニ生ジ、生藥トシテ市場ニ販賣セラル。Liebermann 及ハ Kömer 氏ハ此生藥ヨリ $C_{15}H_{14}O_4$ ナル記號ヲ有スル純粹ノ色素ヲ分離シテ、コレヲ「アルカンニン」ト命名シタリ。其構造記號ハ全ク不明ニシテ、兩氏ニヨルバ「チカキシ・メチール・アントラヒノン」ト見做スベキモノナラント。其結晶ヲ得ルコト不可能ナリ。水ニハ不溶性ニシテ、亞爾簡保爾、依的兒、偏蘇爾、脂肪油ニ僅ニ、嘔囉仿誤、水醋酸ニハ易ク溶解ス。其溶液ハ弱酸性ニシテ深蕃椒紅色ヲ呈ス。亞爾加里ニヨリ青色ニ溶解ス。コレニ酸ヲ加フレバ再ビ紅色トナル。種々ノ金屬鹽ニヨリテ其亞爾簡保爾ヨリ種々ノ色彩アル不定ノ構造ヲ有スル「ラック」ヲ得。亞鉛粉ヲ加ヘテ蒸餾スルバ「メチール・アントラツエン」ニ還元セラル。

Zimmermann 氏ニヨル本色素液ノ製法ハ次ノ如シ。販賣セル「アルカニン」ヲ無水亞爾簡保爾ニ溶解シ、等分ノ水ヲ加ヘテ濾過ス。截片ハ一乃至二時間又ハ六乃至二十四時間ニテ染色ス。溫度高ケレバ染色ノ度僅進セラル。

「アルカンニン」ハ越幾斯狀態トシテ主トシテ諸種ノ脂肪質、皮膚ノ「エライヂン」滴ノ染色ニ用ケラル。又本色素ヲ以テ染メタル脂肪ヲ動物ニ食セシメテ脂肪吸收ヲ試験シタル人アリ。脂肪ハ常ニ蕃薇紅色ニ染ム。

(Santer 氏ハ纖小ニシテ易ク紛失シ又ハ染色シ難キ物體ノ包裹ニ「アルカンニン」ヲ以テ染色シタル巴拉質ヲ用キタリ。即チ熔解セル巴拉質ニ「アルカンニン」ヲ混ジテ染色シ、小物體ヲ此中ニ入レ、包裹セントスル時無色ノ巴拉質中ニ移ス。小物體ハ赤色ノ「アルカンニン」巴拉質ノ套衣ヲ破リテ観察之ヲ認メ得。

(一) 其他ノ染料

一、葉綠素 Chlorophyll 植物葉ヲ亞爾爾保爾ニヨリ浸出シタル液ハヨク脂肪組織ヲ染色スル性ヲ有ス。組織學上好良ノ結果ヲ得。

二、「リポコローム」 Lipochrome ハ植物性脂肪色素トモ稱セラレ、細菌、莖、葉中ニ發見セラレ、黄色又ハ赤色ノ色素ナリ。

三、「プロヂギオジン」 Prodigiosin ハ靈桿菌ノ培養基ヲ亞爾爾保爾ヲ以テ浸出シテ濾過シタルモノニシテ、亦脂肪ヲ染色スル性アリ。

蕃椒紅

Capsicmuro 余ハ近時蕃椒ノ成熟果皮ヨリ橙紅色ノ亞爾爾保爾性浸液ヲ得、脂肪組織ノ染色ニ應用シテ好良ナル結果ヲ得タリ。脂肪ハ短時間(十分間、又ハ以上)ニテ橙紅色ニ特選性ニ染色ス。材料容易ニ得ラルベクシテ染液ノ製法、用法共ニ簡易ナルヲ便トス。

三 人工有機性色素ニヨル脂肪染色

本項ニ屬スル脂肪染料ハ主トシテ亞仁林ノ誘導體ニシテ其組織學的應用ハ千八百九十六年、以太利ノ Daddi 氏ガ「ズダン」IIIヲ用ケタルニ始マル。爾來年ヲ經ルニ從ヒ「ズダン」以外ニモ亦數多ノ染料發見應用セラレ、ニ至レリ。

脂肪染色ノ理論

脂肪染色ノ理論ヲ抄述スルニ先ダチ、色素及ビ染色化學ノ大略ヲ舉グルハ蓋シ無用ノコトナラザルベシ。

抑モ染色ニ關スル理論ハ今日尙ホ一致シタル結論ニ達セルヲ見ズ。甲ハ之ヲ全ク化學的變化ニ基因スルモノトナシ、乙ハ專ラ理學的的作用ニ歸セシム。

凡ソ色素ニ缺クベカラザルニ通性ハ固有有色ト染色力ナリ。有機性色素ハ常ニ其母質ヲ有ス。母質ハ固有有色ヲ有スルモ未ダ他物ヲ染色スル能力ナシ。ガ、ルモノヲ名ツケテ色素原(色原質)ト云フ。例ヘバ「アゾ」色素ノ母質ハ「アゾ」偏蘇爾(C₆H₅N=N.C₆H₅)ナルガ如シ。コハ其性質全ク不偏ニシテ、酸及ビ鹽基ニヨリ鹽基ヲ作ラズ。

今此不偏ノ「アゾ」偏蘇爾ニ陽電性ノ原子簇、例ヘバ NH₂、NH₂、NH₂、CH₃、N(CH₃)₂、N(CH₃)₂OH 等加ハレバ始メテ鹽基性色素(例ヘバ「アゾ」偏蘇爾 C₆H₅N=N.C₆H₄NH₂)生ジ、陰電性ノ原子簇 OH、NO₂、COOH、SO₃H 等加ハレバ酸性色素(例ヘバ「アゾ」偏蘇爾 C₆H₅N=N.C₆H₄OH)ヲ化生ス。色素鹽ノ酸性部ガ色基性鹽基ニシテ、鹽基性部ガ色基性鹽基ナル時、換言スレバ色素ガ色基性酸ト色基性鹽基トノ混和ニヨリ成ル時ハ、ユチ Ehrlich 氏ハ中性色素ト名ツケタリ。尙ホ同氏ニヨレバ以上三種ノ色素ハ特有ノ染色性ヲ有ス。即チ鹽基性色素ハ主トシテ細胞核ヲ、酸性(及ビ中性)ノモノハ細胞體質ヲ染色ス。

脂肪染色ニ關シテハ Michaulis 氏始メテ學理的の研究ヲ遂ゲ其結果ヲ發表セリ。氏ニヨレバ既述三種ノ色素ノ外、尙ホ他ノ一種特殊ノモノアリ。コハ即チ脂肪ノ染色ニ適スルモノニシテ、氏ハ其性狀ニヨリテ之ニ不偏性色素 Indifferent Farbstoff ナル名稱ヲ與ヘタリ。氏ノ所説ノ大要左ノ如シ。

不偏性色素ハ「アゾ」偏蘇爾自己カ又ハコレト中性ノ原子簇即チ OH₂ (オキシメチール)、O₂H₂ (オキシエチール) 等トノ結合シタルモノ、

ハル。

三、故ニ脂肪色素ハ脂肪ニ溶解スル性質ヲ有セザルベカラズ。色素ノ溶解液及ビ組織ニ對スル親和力(溶解力)ハ、色素ノ脂肪内ニ侵透スルヲ妨グルホド大ナルベカラズ。

四、脂肪色素ハ故ニ不偏性ニシテ脂肪ニ溶解スル色素ナルガ、比較的全ク弱キ色基性酸ナルカ、又ハ多少弱キ色基性鹽基ナラザルベカラズ。

五、不偏性ノ色素例ヘバ多ク「アツカ」體、「インドフェノール」ハ其不偏性ノ爲メニ、亞爾簡保爾溶液ヨリ直ニ特選性ニ脂肪ヲ染色ス。色基性酸モ亦然リ。

六、比較的の不偏性ノ色基性鹽基ハ其色素鹽ノ水溶液ヨリ又ハ亞爾簡保爾液ヨリ、或ハ亞爾簡保爾性色基性鹽基ノ溶液ヨリ直ニ脂肪ヲ染色ス。

甲ノ Nilban, Naphtholan, Nenechtban, Neumethylenban, Brillant-Kresylban, Kresylechtviolett, Indazin, Echtruentriolett, Neutralhan, Rosolan, Chrysolin, Iannstrot, Iannshban, Iannsegrin, Bismackbrann 等ニミテ、

乙ノ Indulin 屬, Nigrosin 屬ナリ。乙ニハ尙ホ他ノ數多ノ鹽基屬ス。七、色素鹽水溶液ニヨリ脂肪ノ色彩變調ハ、加水分解ニヨリ其中ニ遊離シタル鹽基ガ脂肪ニヨリ吸收セラル、ニ因ル。此際組織ハ色素鹽自己ノ色彩ニ染色ス。

八、故ニ加水分解ヲ妨グル液、例ヘバ亞爾簡保爾、僱里設林、「フォルマリン」、酸類等ヲ溶解液トシタルモノニアリテハ色彩變調ヲ呈スルコトナシ。

九、色素鹽ノ分解充分ナラザル時、脂肪染色ヲ助クルニハ、水溶液中ニテ染色シタル薄片ヲ亞爾加里ヲ以テ處置スベシ。又鹽基液ヲ以テ染色スルモ可ナリ。

十、色彩變調ヲ現ハス脂肪色素ノ特選性ハ比較的ノモノナリ。

十一、組織ノ色素ニ對スル親和力ノ影響ニヨリ種々ノ結果ヲ來スコトハ同一方法ヲ動物、植物又ハ細菌ニ應用シテ得ル成績ニ就テ見ルベシ。

十二、不偏性ノ色素ハ當ニ亞爾簡保爾溶液ノミナラズ又他ノ溶液例ヘバ酸類、「フェノール」、流動巴拉賓、「フォルマリン」等ニヨリテモ染色性ヲ現ハス。コン等ノ溶解液ハ其溶解度ヲ強メテ濃厚ナル液ヲ作ラシメ、染色ヲシテ強ク且ツ容易ナラシム。

十三、色素ナラザル不偏性ノ色素原ハ亦脂肪ヲ理學的作用ニヨリ染色ス。十四、又多クノ有機性色素例ヘバ葉綠素、「プロチキカシン」、「リボクローム」等モ脂肪染色ニ適ス。

以下最モ多ク應用セラル、人工有機性色素ニ就テ略述セシ。

(1) 「ズダン」

Sudan III. [A], Bot. C. [B], $C_{22}H_{16}N_4O$ ハ煉瓦様紅色ノ粉末ニシテ、水、亞爾加里及ビ酸類ニハ溶解セズ、濃稠ナル硫酸ニハ青綠色ヲ以テ溶ク。亞爾簡保爾及ビ脂肪油ニハ易ク溶解ス。

「ズダン」IIIヲ始メテ組織學上ニ應用シタルハ Daddi 氏ナリ。コン亞仁林色素ノ脂肪染色ニ用ケラントル嚙矢トス。氏ハ其亞爾簡保爾ノ飽和溶液ヲ作りテ猩紅色ノ液ヲ得、其中ニ内臟又ハ組織ノ薄片ヲ染色スルコト五分乃至十分時間、後同時間亞爾簡保爾中ニ洗フテ、僱里設林中ニ臍包セリ。

氏ニヨルバ脂肪ノ外亦脂肪酸ヲモ染色スト。神經髓鞘ハ十分時間ノ染色ニヨリ半透明帶黃色トナルモ、脂肪ヨリハ脫色シ易シ。又「ズダン」IIIニテ染メタル脂肪質ヲ以テ、數日間家兔、「モルモット」、鶏又ハ鳩ヲ飼養スル時ハ、其脂肪組織ノミ染色シテ赤色トナルト云フ。

Reider 氏ハ「ズダン」IIヲ常用シタルモ、脂肪酸ヲ染色スル性質ナシトイヘリ。コハ後一般ニ證明セラレタル事實ナリトス。Handwerk 氏ハ「ズ

ダシ」ヲ以テ「ガスマリウム」酸ニ優ル脂肪染料トハ見做サズ。

Rosenthal 氏ニヨレバ「ズダン」ハ固形脂肪質例ヘバ脂肪酸結晶ヲ染色セズ。熔融セル硬脂酸ニ易ク溶解スルコト、加温シタル中性脂肪ト同ジキモ、凝固スルニ酸ハ白色ノ結晶トナリ赤色ノ「ズダン」結晶ト全ク分離ス。又温度高クレバ其溶液濃厚ナルモ冷却スルニ褪色シテ色素ハ結晶トナリテ沈澱ス。其飽和度ハ最高二〇ナリトイフ。

Aschoff 氏ニヨレバ「ズダン」ハ中性脂肪及ビ遊離脂肪酸ヲ 色ニ、脂肪酸鹽ヲ弱度ニ染色スルカ全ク染色セズ。「ヒヨレステリン・エステル」及ビ同混合物ヲ帶赤黃色ニ染メ、「フオス、フグアチド」ヲ全ク染色セズト。川村氏ニヨレバ中性脂肪ヲ赤色ニ、「ヒヨレステリン・エステル」及ビ其脂肪酸トノ混合物ヲ帶黃紅色ニ、「フオスフグアチド」、「ツェンプロシド」、脂肪酸及ビ脂肪酸鹽ヲ帶黃色ニ染色スルカ又ハ全ク染色セズトイフ。(未完)

●解剖學術語統一急務

石川喜直

本問題ハ昨明治四十四年東京醫科大學ニ於テ開催セラレタル第十九回解剖學會ニ提出シテ其協賛ヲ求メタリシモ異論百出決定ニ至ラザリシハ遺憾ナリシ然ルニ本年二月醫事雜誌各社同盟會代表者タル醫事新聞社、日本醫事週報社コリ醫學上術語ノ統一及普及ニ關シ解剖、生理、病理等三學會ニ左ノ如キ旨意ヲ以テ建議シタリト聞ク

我邦醫學上ノ術語ハ先進者ノ撰定ニ從フモノ多シト雖モ近時業緒ノ報告及著譯書ノ續出ニ伴ヒ各自之ガ改訂新撰ヲ縱ニスルニ至リ漸々繁雜ノ域ニ陥ルコトハ我同盟各社ノ發意ニ係ル「日本醫事雜誌索引」ヲ緋クトキハ一日瞭然トシテ敢テ呶々々復タザル所トス

故ニ今ニシテ其統一普及ヲ圖ラサルハ醫書各科ノ連絡ヲ缺キ後進ヲシテ五里霧中ニ彷徨セシメ又醫學ト密接ノ關係ヲ有スル政治法律等ニ於テモ其基礎ヲ失フニ至ラン加之朝鮮滿洲將タ清國ニ對シ爾後益々我醫學ヲ扶植スルニ當リ術語統一ナラザルハ彼ヲシテ疑義ヲ解釋スルニ暇ナカラシメ講學上ノ不利益ヲ招クコト尠ナラサルベシ

サレバ醫學上既經テ術語ヲ統一シ將來ノ譯語ヲ制定スルコトハ斯學界ノ緊要事業タルヲ信シ先ツ貴會ニ建議シテ基礎醫學術語ノ撰定ヲ乞ヒ延テ諸他ノ學科ニ及ヒ以テ將來ノ完璧ヲ得ントスル所以ナリ

此件ニ就テハ醫事雜誌各社同盟會ハ適當ノ方法ニヨリ貴會ノ効績ヲ空フセザランコトヲ期スベシ

又醫海時報第九百二十號及第九百二十七號ニ於テ醫學博士久保猪之吉氏醫學譯語ノ統一ニ就テトノ題下ニ學語統一ノ必要譯語ニ就テ先輩ノ苦心注意、譯語ノ種類獨逸解剖學會ノ美學及其結果ヲ詳述シ最後ニ同氏ノ案ニ係ル統一會ノ組織及其事業ヲ述ベラレタリ

以上雜誌社ノ建議並ニ久保氏論文ハ最近ニ於ケル術語統一ニ對スル學者ノ意向ヲ代表シテ餘リアリト雖モ更ニ逆リテ史上ニ考フルニ術語統一ノ要求ハ其淵源甚ダ遠ク時代ト共ニ其勢度ヲ高メ博士鈴木文太郎氏ノ如キハ數年前解剖學名彙ヲ著シ其序ニ「同物異名ハ夙ニ學者ノ流スルトコロニシテ科學界ノ通弊ナリ而シテ學術ノ進運ハ專門の術語撰定ノ必要ヲシテ増々急ナラシムルハ敢テ故ナキニアラズ然リト雖斯ノ如キ事業タルヤ須ク學者ノ協力一致以テ事ニ當ルニアラザレバ何等ノ寸效ヲ期スベカラズ今我邦醫學ノ現狀ヲ觀ルニ其ノ隆盛今日ノ如キニ於テスラ未ダ曾テ醫學的用語撰定ノ舉アルヲ聞カズ豈斯道ノ一大缺點ト謂フザルベカラス」ト慨嘆セラレタリ又以テ其一般ヲ知ルニ足ラン、是ニ依テ之ヲ觀レバ學者ガ如何ニ統一ヲ切望スルカ社會力如何ニ其惠ニ浴セント希フカ予ガ喋々ノ辯ヲ待タザルナリ、要スルニ今ハ只著手實行ヲ急クノミ

次ニ統一ヲ行フニ當リ攻究スベキハ其順序ナリ勿論先ツ基礎醫學ヨリ著手セザルベカラズ雜誌社ノ解剖、生理、病理、三學會ニ向ツテ建議シタルモノ蓋シ其旨意ニ外ナラザルベシ就中解剖學ハ基礎ノ基礎タルモノナレバ先ツ第一ニ之ヲ完成セシメ然ル後他科ニ及サルヘカラズ若其順序ヲ轉到セシカ勞シテ効ナキニ終ランノミ之レ予ガ解剖學會ニ向テ切ニ緊急協定ヲ促シタル所謂ナリ幸ニシテ解剖學會ニ於テ容ル所トナランカ一ハ其基礎ヲ作リ一ハ範ヲ他科ニ示シ而シテ期セズシテ全科ニ普及スルニ至ラハ獨リ斯界ノ幸慶ノミナランヤ

終リニ臨ミ統一ノ方法ニ就テ左ニ愚案ヲ述ベシ

一、解剖學(組織學、胎生學ヲ含ム)上ノ術語撰定ハ解剖學會ノ事業トスルコト

二、會員中ヨリ若干名ノ委員、一名ノ書記ヲ撰出シ委員會ニ於テ撰定シタル若干ノ著譯書ヨリ同一物ニ對スル術語ヲ記シタル表ヲ製シテ會員ニ配

附シ年ニ解剖學會開催ノ時採決スルコト

三、歐米ノ固有有名若クハ適當ノ譯ヲ下シ難キモノハ原字ヲ用ヒ必要アラバ平假名若クハ片假名ヲ用ヒ漢字ヲ用ヒザルコト

四、資金ハ解剖學會、有志者等ノ寄附ニヨルコト

五、其他ノ事項ハ委員會ノ決議ニ委スルコト



漫 錄

● 弔小野太三郎氏

川 島 俊

慈善家小野太三郎氏は去四月四日逝去せられ八日盛大なる葬式に際し本校職員川島俊氏は左の弔文を朗讀せられたり。今同氏に乞ふて更に訓点を記入し以て此誌上を飾るこゝとなせり。吾人は小野氏の高德を追懷するこゝ更に切なり。

博愛善行也、故當レ行救濟義務也、故當レ務是非ニ道德攸レ命宗教攸レ要乎斯命令也斯要求也道德宗教之生命而未レ至レ完ニ威力ニ現代事實也、然乃道德果無ニ權威乎、宗教果無ニ勢力一乎、豈夫然哉觀ニ古來聖人大德感化深刻百世不磨ニ毫無ニ挾レ疑餘地一、方今東西文明稱三千古無比ニ道德宗教亦考證該博黃口ノ乳臭尙且爲レ通ニ大要一却不レ見ニ世道人心向上發展一是非下實一踐躬一不行不ニ相伴一只不レ過ニ空一理空ヲ論流行一乎無ニ權威一無ニ勢力一當ニ然耳、賜レ綬小野君、素生ニ布衣一自レ幼治レ産營、々屹、々會未レ受ニ道德宗教啓沃一也而稟性敦ニ同情一獻替ニ一身一沒却ニ生涯一救一濟ニ非運薄一命同胞士一女一其慈崇ニ父母一其惠如ニ雨露一餘澤無レ竭矣於レ此世所謂高尚道德論深遠宗教說於ニ君前一全屬ニ無用饒舌一也所レ稱ニ識者積德一者來ニ君前一殆不レ異ニ白晝電燈ノ失明且君於ニ生涯一仁義固不レ學而體レ之不レ辯而得レ之是以大足レ使下ニ世教育者宗教家肅然警省上ニ交嗚呼君威德仰レ之彌高欲ニ頌一贊之ニ覺下費ニ千言萬語一畢竟不レ過レ添ニ蛇足一其超一

絶一人格ニ定可レ爲_レ帶ニ靈界使命ニ權化_レ也予職奉ニ官立金澤醫學專門學校ニ
 分學ニ解剖事務ニ相關與_レ君識久矣數浴ニ君靈光ニ今君一逝爲ニ白玉樓中之
 人ニ復不_レ得_レ見_ニ簡活經典ニ哀哉乃柩前薦_レ香串ニ英靈ニ辭曰

臥龍山麓 常盤街頭 數棟瓦屋 窮氓攸休
 燕雀有_レ巢 人子無_レ床 一介處士 蹶然先憂
 傾_レ產頌_レ餐 躬_レ絶_ニ膳_レ羞_一 維_レ仁_レ維_レ義 德_レ軼_ニ王_レ侯_一
 忽_レ焉_レ溘_レ亡 春_レ窓_レ怨_レ纒 白_レ山_レ巍_レ々 麻_レ水_レ悠_レ々
 厥_レ功_レ既_レ高 厥_レ緒_レ遠_レ流 遺_レ迹_レ可_レ訪 白_レ雲_レ難_レ留
 貴_レ賤_レ會_レ葬 滿_レ眼_レ含_レ愁 寶_レ圓_レ寺_レ畔 花_レ竹_レ僕_レ々

維明治四十五年壬子四月釋尊降誕日

金澤醫學專門學校書記 川島 俊敬白

校内雜報

●四年級々會—永平寺へ (四月二十七、八日)

「おばさん、明日は一番で家四時に出なけりやならんから三時に起して下
 さう。」

翌朝「、、さん三時打ちました。」「うん」と言つて目を開けるま眞晴だ。
 凄惨な思ひをする。何も起きるのがつらいといふばかりではない。この瞬
 時に深く僕は人生を象徴_シ化_シしたに相違ない。感覚々々言つて人が想
 像するやうな單なる感覺といふものはありはしない。少くとも高等動物に

はない。(副意識にいふのは別として)。普通單純なる感覺といふものも其實
 複雑なる精神要素の結合したものである。大なる觀念聯合の系統がうしろ
 に働いてゐる。思惟と感覺といふも程度の差に過ぎない。——近ごろ西田
 幾太郎先生の「善の研究」を讀んでなる程と思つたことがある。僕が午前三
 時の眞くらがり目に醒まして最初の刺激に僕自身を見出したまき感覺を
 思惟とは決して二つではなかつた。文字に囚はれ易いのは世人の常である。
 分類は眞理開鑿の作業工事に過ぎない。作業工事の跡を見て直ちに眞理と
 早合点されては請負師の學者も迷惑することであらふ。眞理は何時も分類
 の奥にある。こいつて分類を輕んじてはならぬ。分類は發達せる頭腦のエ
 ンペンドリロカイトを裏書するものであるから起きて窓をあけると、暗い
 空の底にきら／＼星が輝いてゐる。昨日圖書館から歸るときは、明日は雨
 に相違ないと思つたのに。葉鞋脚絆の扮裝輕く宿を出る。新塲町、里見町
 ーこゝでA君を誘ひ—廣坂、仙石町から堤町へ出る。大低明るくなつた。
 ちつとまだれむつてゐる自然の胸の上に、たゞ自分の生命だけが光つてゐ
 る。朝は心持ちのいゝものだ。今更ながら思ふ。先着の諸君はもう停車場
 の前に持つてゐた。下平先生、松原先生もれ出でになる。一行三十人。豫
 定より十人減じたが、吾々はそれを少しも不思議と思はぬほど、銘々却つ
 て自分を早く起きて來たものだ。感心してたのだつた。汽車の窓から見
 る、山の端がはづかに潮紅してゐた。美川を越すと長い／＼瑠璃色の裾を
 ひいた端麗な白山の姿が前に來た。高等小學から中學、八年の間僕はそ
 の前を通つて、天氣のいゝ日にはいつも其姿に親まぬことはなかつた。あれ
 が白山だ、と言つても案外低く見るので本當にせぬものがある。
 トンネルを一つ過ぎると、越前平が朝日に輝いてゐる。福井へ下りて最初
 に訪問したのは左内先生の墓だ。案外に見すばらしい丈それ丈敬意をよけ
 い拂つて來た。藤島神社境内で二枚の記念攝影をする。寫眞師は高桑氏。
 まだ十時だけれど境内で晝飯をすませます。

城の壕、並木のみどり、連山の色、縋のやうだと思ひながら永平寺まで四里さいふ道標を見て歩き出した。路は實に砥のごさだ。それでも日光の直射が可なり烈しいので山へ入つてからシャツと上衣を脱ぐものが多い。悠々として二時に着いた。宿坊へ入らぬ前、紀念寫眞四枚撮る。本山には専用の發電所があつて、夜ほども明るい。便利ではあらふが、僕にはこの前電氣のなかつたときに來たやうな有難味が感じられなかつた。永平寺はなるほどいゝところである。どちらを見ても鬱蒼と茂つた程のよい高さの山で圍まれてしかも溪流の喧しい音がしない。「冬はしかし寒いだらふ」松原先生が仰つたが、炭はあるし、それに電氣でスチームでも製らつたらさそよからふと思ふ。入浴をすまし、夕飯を終へて吾々は廣間の一隅に級會を開いた。ふはがきに「スタンプ」を捺すもの、豆が出来たつて氣にするもの。その間に鐘の音が聞ゆる。すてきにいゝ音である。西の方と思はれる山の木立の上に、薄つらさまだ夕映が残つてゐた。當時本山出張中の醫師佐藤庄二郎氏、また吾々のこの行を聞いてすぐ自轉車でわざ／＼駆けつけて來られた卒業生吉田團磨氏、兩氏からばれみやげをいただき、佐藤氏にはなほ世話になつた吾々は思ひがけぬ親切に遇つて實に愉快な感じがあつた。二氏に對しここに厚くお禮を申し上げます。開會の辭は高橋君。次で下平先生が、お話しのうち、「これまで、度々級會にも出たが、今度のやうな愉快な、そしてハイリヒな會はなかつた」と仰つた。わが級會の光榮としてこれに過ぎたものがない。次に松原先生は「先づ感じたことは、この山中にかゝらず、道路が非常によいといふことである。七百年前の昔は恐らく道らしい道はなかつたであらふ。吾々はこれ丈の道を歩いてさへ豆が出来た位であるが、開祖の御困難はどれほどであつたらふと思はれる。さつき飯のときに聞く、北海道からも數十人の團體參詣者が來てゐるさいふ。實に人格の感化力は偉大なものである今私等が如何に研究を積み大學者さなり大發見をなしたとしても、到底斯様な感化力を及ぶこと

は出來ないであらふ。……今後にはなほ更人格がなくては駄目である。政府が醫者を待つに單に智識の所有者としてゐないのを見て、専門の學問以上に高貴なる人格を有たなくては相濟まぬわけである。……」と即感述べられ、なほ、文明の力はこの山中に電氣を持つて來た。文明の進歩は一步も足をさぐめない。諸君も決して日新の學問に後れてはならぬとて或る數醫の一笑話を話された。次で、周頌聲君は昨年歸國後の情況を述べ、楠田君、青木君、五十嵐君がそれ／＼快辨を振ふる。(白木君、岡田新雄君、楠田君は一行より後の列車であつた。今度の級會に色々骨折なされた、棟岳寺住職は一場の有益なる禪學談をされた。

餘興として忠臣藏一段目四十七士の指名投票も面白かつた。終りに雨森君が、只今ローベルトコッホ先生の墓に參詣しましたら、先生からわが級會に對してこんな祝文を寄せられたと言つて一篇のドイツ文を朗讀する。これは一番ハイカつた、開會の辭は高橋君。十時であつた。吾々は夕飯を食つた二階の廣間の一方、(他の一方はやはり團參の婆さん連だ)で寐た。寐たは寐たが到底眠られたものでない。普通の晝を二乗か三乗したやうに喧ましい。團參連中は無論寝るつもりがないらしい。二時には座禪が始まり、説教が始まる。その鐘がかん／＼鳴り出す。僕などは座禪に起きるつもりだつたからいゝやうなもの、そうでない人は氣の毒だつた。二時の鐘が鳴ると坊主が來てすつかり夜具を片づけてしまつた。朝になつて見たら、積重ねてある夜具の中にくるまつて一寸斷層になつて三人ばかり寝てゐた。四五人起きるなりすぐ座禪堂へ行つて見た。「タイトルメン」出來ることかと思つたら、中へ入つちやならんといふ。餘儀ないから、座らふぢやないか、僕は玉君と二人外縁へ座つて見た。裡では何だか説教見たいなことをしてる。つまらない。玉君は先づ立つ。僕は遂に我を折つて立つ。こんなことは、何時か折があつたら來て見たいと思ふ熱も冷めてしまつた。悟由禪師はほらいといふけれど、その外に陽明學位の見識をもつた奴が居

るかしらん。寝ることも出来ず、仕方がないからぶらり法堂だつたかの説教を見に行く。見學くつてこんなを言のかしら。それでも、開經偈の無上甚深微妙法、百千萬劫難遭遇、我今見聞得受持、願解如來真實義、さいふ句は好だから、小さな聲で唱和する。廣い御堂の中は色々飾つてあれど、どれも皆「クラシツク」の「クラシツク」で趣味が乏しい。只大きな四匹の駒犬(?)と木魚の音丈は今も趣味が生きてゐる。直ちに熱帯をしのげるものだ。六時に朝飯を終へて寶物を拜見する。僕は脚絆をばいた儘だつた。あゝ今思つても慚愧に堪へぬ。釋迦如來よ、六祖大師よ、道元禪師よ、其他の諸靈よ、諸大善智識を心から崇拜し、いつかは御身等に見ひんごを熱望する一小子の無禮を許し給へ。釋迦如來の御舍利と御數物の屠丈は今以て全く信用出来ないのを自白せねばならぬ。六祖大師の御數珠、開山承陽大師の御遺物、御筆蹟、其他無數にある。この中、六祖慧能禪師の御數珠の前丈は去るにしのびなかつた。幾度もく見下。寺を辭したのが八時頃であつたらふ。福井あたりの中學生であらふ、日曜遠足さいふ風で七八人も吾々逢ふ。尻さんが白脚絆に高下駄で悠々さしかも吾々にまけずに行く。朝の光線がやばらかに後姿を射していかにもおんびりとした心持を興へる。一里あまり来たと思ふところで行は二つに分れて、一方はすぐ丸岡へ、一方は義貞の墓を見たいといふので一寸脇道をする。大變不利益な脇道であつた。一里あまりの足を只損をしてしまつた。お蔭で義貞の墓を見れたが、墓守の婆さん、(さいふさいかにもしわくちゃを想像するがそうでない。お墓の横に立派な庵を持つた尼さんである。)から鍋の底のやうな鎧の背を見せられて恐縮した。寶物であつたらふ。丸岡の停車場へ着いた頃はちりちり暑い。汽車は三十分あまりくれる。細呂木、大聖寺、動橋、粟津、小松……で所用のため君と僕と下りる。一行を目送する。少し黄ばんだ午後の日光がばつさ目にはい。 (JF)

●第六回陸上運動會

それは丁度、花と霞の模湖たる中に音たて、春の生命が亡びるやうだ。犀川の上流から瀑竹の音が響く。初夏の夢またさめやらぬ心持に、あゝあるな！皆が思つたことであらう。……………

どこを見ても暗れた空と青葉ばかり。中にも新築校舎の縁の扮装が美しい。アーチをくぐつて左手の棟が醫四體館で右はがきの陳列最中。すつと校舎の横手を通つて會場の右手の方に皐月館がある。あつさりした茅張りの中に花あやめと金魚とが安置されてる。すつと奥まつたところが紳樂館で、薬瓶などの用意がたくさんある。齒磨粉や「セルテル」水の製造所だ。會場はまた白紙で、醫王たるしがそよ／＼してゐる。九時半から競技に入る。

第一回 二丁競走

- 1 今井
- 2 富田
- 3 皆川

第二回 戴囊スプーン競走

- 1 佐藤
- 2 小出
- 3 寛

第三回 竹馬競走

- 1 眞下
- 2 稻垣
- 3 吉浦

第四回 二人三脚競走

- 1 堀一 中林
- 2 源明一 藤岡

第五回 提灯戴囊競走

- 1 下川
- 2 後藤
- 3 岡村

第六回 板ガンスプーン競争

- 1 青木
- 2 島

第七回 飛脚競走

- 1 田村
- 2 野手
- 3 今井

第八回 制歩競走

- 1 島
- 2 藤岡

第九回 椅子取競走

- 1 山下
- 2 日比
- 3 後藤

第十回 障害物競走

- 1 今井
- 2 宮田
- 3 上池

今井は眞に技群の勇士。山崎先生もたいへん賞められた。めざましい動きに一同目を見張る。

第十一回 提灯戴囊競走

- 1 谷
- 2 高倉
- 3 藤岡

「今日の書生さんは頭ばかり出すさかいようない。頭は低うしさくもんぢや。今のやうな提灯競走やさ提灯の底を前へ出して、穴のまゝを自分のからだに付けて三十五度位にしさくさ一番いい」と観客のうちに言ふものが居る。實にその通りで、一等の谷はそうして勝つた。

第十二回 六丁競走 (一分五十秒)

- 1 増田
- 2 今井
- 3 野村

第十三回 二人三脚競走

- 1 窪田―松田
- 2 茶野―平田

第十四回 竹馬競走

- 1 吉浦
- 2 田邊
- 3 深澤

第十五回 陸上短艇競走

これは三人の足を竹でつなぎ、手に又竹をもつて走るのだ。

- 1 久米川、神谷、石野
- 2 淺地、入山、唐澤

第十六回 二丁競走 (三十二秒)

- 1 伊藤
- 2 皆川
- 3 宮内

第十七回 戴囊スプーン競走

- 1 藤岡
- 2 鶴來
- 3 岡村

第十八回 制歩競走

- 1 中濱
- 2 佐野

第十九回 一人一脚競走

- 1 森下
- 2 北村

第二十回 四丁競走 (一分二十四秒)

- 1 吉川
- 2 中林
- 3 上池

これで晝食。午前は十時頃から會場の周圍は人垣を以て埋まつたのだが、午後はいやが上に籠り合つて來た。小立野の通りも花見ころの公園位賑ふ。病院前から本校までの間は只人の浪だ。その浪が霏霏に打寄せてゐる。

「人探し」の人氣だ。野次變裝者のうちでは坊主が最も大もて、二時までには甲乙の變裝者は皆捕まつた。運動會の雜踏を二分にし其一は「人探し」が有つさいふすばらしい勢。「人探し」は大成功。

第二十一回 親子競走

- 1 久保田―伊藤
- 2 鳥田―松田

第二十二回 重荷競走

- 1 上池
- 2 今井
- 3 中谷

第二十三回 飛脚競走

- 1 田村
- 2 神田
- 3 高橋

第二十四回 竹馬競走

- 1 眞下
- 2 水城
- 3 吉浦

第二十五回 二人三脚競走

- 1 堀田―安達
- 2 本田―松井

第二十六回 椅子取競走

- 1 今井
- 2 本江
- 3 源明

第二十七回 一分間競走

第二十八回 片脚競走

- 1 今井
- 2 神田

第二十九回 孝行競走 (四十五秒)

- 1 稻垣
- 2 森本
- 3 吉田

第三十回 障害物競走

- 1 今井
- 2 上池
- 3 天野

第三十一回 提灯或囊競走

- 1 谷
- 2 田村

第三十二回 一哩競走

- 1 今井
- 2 上池
- 3 西岡
- 4 秦
- 5 鳥居

第三十三回 腕力競走

- 1 澁谷
- 2 島
- 3 上池

第三十四回 六丁競走 (二分五秒)

- 1 皆川
- 2 上池
- 3 堀田

第三十五回 市内小學校撰手競走

- 1 小將町小學校 齋藤
- 2 小將町小學校 岡田

3 小將町小學校 水井

第三十六回 縣立學校撰手競走

- 1 一中 長川
- 2 師範 吹本
- 3 二中 村田

第三十七回 高等學校撰手競走

- 1 柴田
- 2 丸瀬
- 3 小此木
- 4 池田

5 岡

第三十八回 來賓競走

- 1 野山
- 2 中川
- 3 織谷

第三十九回 職員競走

- 1 松原先生
- 2 林先生
- 3 村田先生

第四十回 小使競走

- 1 宮
- 2 田中
- 3 丹羽

第四十一回 各級撰手競走

- 1 藥二 宮田 (一分四十六秒)
- 2 醫四 野坂 (一分四十七秒)
- 3 醫一 増田 (一分四十八秒)

この間に餘興として醫科二年の現代職業いろは行列は最も趣味があつた。其外藥學科の狐の嫁入、醫科一年の人生行列、野球部のタルム踊、醫科四年の病原行列それら大喝采を博した。敢て言ふ今度の運動會は非常の成功であつた。

● 艸樂箱及び狐行列の記

運動會餘筆

紫雲柳引く東に
白峰の雪色映す
て城東の一角に崇き使命を傳へんと築き上げられた學舎の新たな齡を祝さんご平年より少々張込まれた運動會があり僕が我が科の艸樂箱と餘興の狐行列に就いて少々細かく書きたい。

抑艸樂箱科は三學年を通じ合併して設立した、廣さは五間に五間で周圍には帷幕を張り廻はし入口は縁門を築いて花細工の『艸樂箱』と記した扁額を掲げて内部には長机、椅子を配し天井には萬國々旗を蜘蛛手に張り渡して頗る景氣よかつた。

艸樂科本領の藥品を應用したる裝飾

先づ交又せる日章旗を高く捧げたる縁滴るばかりの大縁門をくぐれば正面には校章を廓大せる硝子製の

を吊して上部より硝子管にて一方よりは Phenolphthalen を注入し他管よりは Alkali を送つて(兩藥品共に無色なり)、校章の中央に来るも兩者相合して赤色の鮮麗な色を呈して下部から出て再び赤色を失ふて無色と化する組星の裝飾があつた、學理を辨へぬ素人向へは大に物參らくあつたらしい、それから左手に曲て入るこ

**紳樂箱
菓子司**

さ店頭に着板が掛けてある、五六百袋の菓子小山をなして机上に積んである店員(實は、クラス、箱委員様)は忙し事非常だ、引換券を受取る!引裂く!渡す!又受取るを云ふ調子であつた、記者も財布を舉げて紳樂箱券の大買入をして早速、カガシを引換へた、袋は小さいが内容が富豊の様子、ムシガシ?、セイベン?、アルヘイ糖?、知らぬが色氣に慾氣のない僕はソ、コラの慾の塊に全部を與へて(實は僕の腹村へ)次なる、

**紳樂箱精製セ
ルテル水本舗**

へ足を運んだ、店員乃至番頭クン等首手拭で額に汗して製造しつゝ併せて販賣して居る誰も咽喉が干せる時は水モノに限るこばかりで店員等の席の温る暇はなかつたらしい、味は可成良かったが少々 CO₂ H₂O が多かつた様であつたが大に咽喉がなつた、次に少時後に又引換へた品は大に酸味が強くてのみが欠乏して居つた、ソ、コを出で次の

**衛生試験済
殺菌牛乳司**

へミ繰込んだ、コ、の番頭、ダチは中々横柄だ、尤番頭御自身で殺菌したり衛生試験を施行したする故如何にもミ又一面では大に敬服した、牛乳は僕の大好物故腹とも何處とも相談なしに早速開口一番嚙下した、が成る程鬚のある店員や髪を梳つた番頭様の販賣する牛乳は甘い事よ感心した頃には已に三本目で引換券は一枚もなかつた、若干腹を肥してから向側の出口際の店頭へ突進した、コ、ハ

**紳樂箱特製
紳樂齒磨粉司**

だ、Mentol の臭が頬に鼻を衝く先づ一券差出して引換へると優美な小袋に入つた齒磨粉の一袋だ、嗅げは嗅ぐ程良

い臭だ、コレナラ流石のライオンをも壓倒し得る事と獨夢想した、然もその裏面には懸賞獨文のあるに於てはライオンの慈善券に勝る事何倍なるや知れぬ事だ、懸賞獨文和譯とは次のものだ、

SORAKU-ZAHNPULVER

Nie da gewesen, unbertrefflich.

Die Stoffe besonders gewählt, gepulvt und präpariert; die Herstellung auf das künstlichste gelungen. Auch ein himmlischer Geruch wird einem bezaubernd entgegenwehen, sobald die Tüte aufgebrochen wird. Erst hierin hat man ein ideales vollkommenes Pulver.

Wer seine Wirkung kennen lernen will, der versuche es einmal! man wird über seine Wunderkraft erstaunt sein, unsaubere Zähne auf einmal blank zu machen, sie vor allerlei Übel zu bewahren.

同解答は當日午後三時までであつたその數は七八十の多數であつた、が最文章の佳なるものは次の三者でその譯文は次の如くである、

○一等賞

柴野順吾君(醫事生理副手)

空前絶後ノ逸品、

材料精選調製精巧ヲ極メ一度封ヲ開カンカ妙ナル芳香馥郁トシテ心ヲ恍惚タラシム眞ニ空前ノ理想的齒磨ト云フベシ

ソノ効果ヲ知ラントスル諸賢ハ一度御使用アレ!必ズヤ不潔ノ齒牙ヲ純白トシ種々ノ齒患ヲ未然ニ防グノ奇効ニ驚カルベシ。

○二等賞

能村幸次郎君(四高時習寮)

紳樂齒磨粉ハ空前無比ノ良品ナリ原料ハ特ニ精選セラレ製法又精巧ヲ極ム開緘直ニ馥郁タル芳香人ヲ襲ベシ
實ニ理想的完全ナル齒磨粉ナリ、

ソノ効能ヲ知ラントスル人ハ一度御使用アルベシ不潔ナル齒牙ヲ純白ニシ諸ノ疾病ヲ防ク達力ニ驚カサルベシ。

◎三等賞

堀居辰次郎君 (四高一部)

紳樂齒磨粉ハ從來世ニ有ラザリシ無雙ノ逸品ナリ、材料ハ特ニ精選セラレテ試験シ調製ナシタル故製作品ハ最モ精巧ナリ得タリ。

一度袋ヲ開カンカ高尙優雅ナル芳香ハ立所ニ吾人ヲ魅スルカ如ク襲ヒ來ラン、此所ニ於テカ初メテ吾人ハ理想的完全ナル齒磨ヲ得タリソノ効能ヲ知ラントスルモノハ乞フ一度是ヲ試ミラレヨ、吾人ハ想クハ不潔ナル齒牙ヲシテ俄ニ光輝アラシメ各種ノ疾病ニ對シテ齒牙ヲ未然ニ豫防スルソノ奇効ニ喫驚セラレ、ナラン。

當選者三名ハ東京精華書院寄贈の圖書、雜誌を賞として與へられた、同懸賞係及び譯文調査の諸先生の勞を多し併せて精華書院の好意を謝すものなり。コレで紳樂館も一巡出來た、が未だ

紳樂館寫眞部

は見ぬので何處だぞ尋ねたら係員は目下全部暗室で作業中だと聞いてマ、にした、が同部係には非常なる熱心と妙技と經驗とを有する手塚君や森田君の骨折りさるゝ故頗る優美鮮麗なるものならん。前日から樂んで居つた、當日の餘興や光景を當日即座に賣出す云ふ様な事は中々他には見られぬ活動振りだよ、午後四時頃に全部出來して發賣せられたが非常なる美品だ坊間の寫眞師の到底及ばざる事だ、臺紙は『コダク、ベルベツトレーン』と云ふ上等なものだ、本校全景と當日の餘興及び光景の三枚で一組だ、永遠に好箇の記念となつて傳はる事疑な

しだ、
以上が先づ記者の紳樂館巡りの表面である、
コヒカラ、紳樂科餘興の

狐行列

の大体を書いて見よう、凡て運動や餘興は人数の多い程それだけ趣味が多い、狐行列も他の餘興と比して最人数が多かつ

た六十何人かであつた、その行列順序は次の如くである。

導者。音樂隊。科旗。露拂。高張。武士。狐旗。長持。兩掛。士。御輿。乳母。下女。酒樽。士。

時將に三時四十五分に樂隊を先頭にして意氣揚々會場内に出陣した、劈頭第一の大立物は之を赤地に白く「ヤ」字を染抜きたる巾一丈長さ一丈四尺の科旗(その時の券の)を三間餘りの太竹に懸へして袴、帶刀に草靴に身を固めし大士が丁髷に狐の面付けて外見も振らず悠々進行する次に連くは露拂だ、して其の扮装は鐵色の割羽織に大島の袴に一刀帶んで右手には扇子左手には提灯を提げて常ならぬ『下に居れ』『下エーに居れ!!』と得意々次に控はしは二張の高張だ持つ人は法衣に股引の草靴がけ次は、士が三人、コノ扮装は丁髷に狐面、袴に袴、腰の物ミ提灯、扇子で草靴と云ふ有様、其の次が狐の國旗だ即ち『正一位聖藥稻荷大明神』と麗々しく大書した一旗だ、次が嫁殿の御荷物(長持)の中流の狐と見えて四竿あつた、狐の定紋が赤く染抜かれて美しいユタンが被せてあつた、後に連くは定紋入りの輕便兩掛だ、これは余り重くなかつたらしい、此の次が花嫁御寮の御輿だ、之れこそ本物だ、籠昇は随分重くて御苦勞様だつたが、何れ駕殿の家で多長福久馳走になつた事だろ、花嫁は身長五尺八寸体重十八貫八百二十匁と云ふ体格だそれに鬘がある、然るに急作りの、内股歩みだ、加へるに衣裳は上等物で打掛まで着て居る、此の花嫁が金城々下の野球界のオーソリチイと聞けば驚かすには居られまい、呵呵、次が乳母だ、この乳母の丈の長い事全校一だろ、六尺だもの、ハイカラにも鼻眼鏡をかけて居た、次が下女だ、二人が今日を晴れと着飾つて外股に肩を振つて黒い首を出して行く様は中々コノ下女には見られぬ所であつた、連いて本酒樽だ、中々之れも重い事だつたらう、次が武士數十名だ、
會場を一週するさそれから中央の空地に集つて花嫁を中に据えて一同銅割聲で『高砂やこの浦船に……』と詠つた頃には見物の群集は鯨聲を作

つて騒いだ。目出度高砂も終つて紀念撮影をした、場内は割るゝ計りの拍手に迎へられて順路揚々紳樂館へと引上げた、時正に四時過ぐる事二十分也先づ行列の順路や扮装はザツト以上の様であつた、

餘興委員も數日來熱心東奔西走して準備せられただけあつて中々面白くあつた、が何しろ人数の多い所へ同様の身作りをなまする故に準備が容易でない事は一目瞭然たる所だ、があゝの位に行けば充分であると思ふ、

●第六回杏林會大會

十一日舉行の陸上運動會最後の各級撰手競争に於て月桂冠を握りし我が會の重鎮白兩宮田君の慰勞會を兼ね五月例會を同日午後九時から一茶亭に開會した、

終日の徒歩に加へるに今宵の提灯行列で市中を騒ぎ廻つたから皆充分疲勞したと思ひの外元氣百倍毫も平日に違ひなしと意外の意外であつた、定刻になると神谷幹事の簡明な開辭につき

撰手慰勞の辭

武 内 君

君は應援團員の一人として君特有さも云ふべき例の輕快なる口調で熱心に撰手の勞を謝され次いで

應援團長として

中 林 君

題目の如く我級の應援團長として其の効の違大なる其の團の強固なるを盛に説かれた、君は實に我が『クラス』中有數の熱血漢である、その熱血に依つて少くも此回の月桂冠の一部は得られた事と信ぜざるを得ぬ

我が餘興に就いて

塚 田 君

君は紳樂餘興委員の一人として同餘興に關しての成否、欠点を擧げて委員等の不充分なりしを謝せられ併せて撰手及び應援團に對する慰勞の語を發せられた、終つて

謝 辭

宮 田 君

本宵の大立物たる宮田君偉大なる体軀を正座に運ばれて嬉々たる光に輝く双眸を張つて我月桂冠を獲しは之全く余自身に非ず諸君の應援の効にありと遜辭を以て謝せられて退くや、

所 感

石 野 君

『乞ふ余に過激徒の名稱を許せられよ』と冒頭に語を高くして呼び撰手慰勞の辭、應援團の成功、餘興の新趣向を公平なる見地よりして大に賞せられた、熱ら思ふに我が科の名譽、成功は少くも君の偉大豪邁なる膽と熱烈事に當らるの事なくんば決して這般の名譽、成功は覺えなき事日を見るよりも明也乞好漢益々多々努力以て自重せられよ矣。

所 感

西 岡 君

君は本宵は撰手の慰勞會を聞いて日頃知己の撰手故大に其の勞を慰せんご態々來會せられて痛快なる辭を以て所感并に慰勞の辭を述べられた、次に祝 辭

藤 本 君

君も西岡君と同様であつた、撰手慰勞の辭に併せて本會の發展を巨賞せられた、演説の終ると同時に晚餐の配膳となつた、時が遅い事故中々空腹であつたが、忽ち温いマ、と何かまで再び運動會の準備が出来た、そこで應援團長を先拂ひとして校歌の合唱、次に餘興委員先拂音頭取りで『高砂や……』を謡つた、それから彌次歌のテカンシヨ節『力山抜く藥科の撰手……』、『急行列車や飛行機でさへ……』、『勝たんぜ勝たんぜ勝たんぜ……』と恰も第六回杏林會は第六回醫專校陸上運動會と化した觀あつた餘興としては薩摩琵琶、詩吟、謡曲、あり、興何時に到るも不止。時針十二時を報ずる頃幹事發聲に伴ふて杏林會萬歳を三呼して閉會を宣した、(NT生)

●春季弓術大會記事

一 委員

人は己に花に飽き今や其の氣漸く鬱せんとする此の期に當つて我が十全會弓術部は卯月二十四日(最終日曜)をトして春季大會を催しぬ朝來蒼穹拭ふが如く晴れ渡つて新緑の風衣袂に薫り弓術大會には好日和なりしを以て戰士の意氣頓に昂り平素鍛へし腕を撫しつゝ奮戦せる有様甚だ壯なりき

會場は小立野原頭に聳ゆる新校舎東南方に新設せられたる射場來賓席には幔幕張り廻らし準備全く整ひ定刻に遶るゝ半時間にして先、數取競射より開始せり

其の成績如左(尺二的)

- | | |
|-----------|----------|
| 一等 岩田高明 | 二等 吉浦仙太郎 |
| 三等 宮地通夫 | 四等 八島修 |
| 五等 久本榮治 | |
| 点取競射(尺五的) | |
| 一等 久本榮治 | 二等 岩田高明 |
| 三等 八島修 | 四等 根本乙男 |
| 五等 千田登 | |

次に全員各勇を誡して五寸的に向ふ途に射貫くものを得ざりしは遺憾なりき、折しも正午一先休憩して午後再開已に四高一中の選手及來賓諸氏來り會し練習に餘念なし

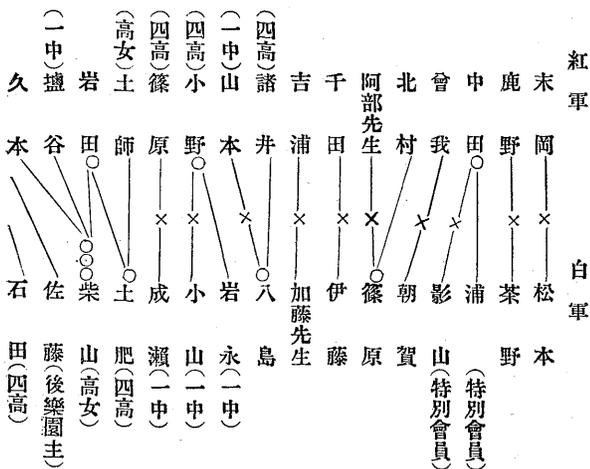
撰手競射(尺的數取)
三校の選手三組に別れ交々腕をつくらひ立つ戦愈々激數矢叫びの聲天地も裂けんばかり各校選手一矢的中すれば觀聲交々起り興愈々酣きなり遂に左の結果を得ぬ

- | | |
|-------------|-------------|
| 一等 鹽谷榮朔(一中) | 二等 岩田高明(本校) |
| 三等 石田昌勝(四高) | |

- 次は來賓職員競射(尺五、点取)
- | | |
|---------------|---------|
| 一等 林工一氏(高女) | 二等 八島先生 |
| 三等 土師雙他郎氏(高女) | 四等 阿部先生 |

金の競射
總員にて一手持之を行ふあやにく一同の武運拙くてや的は遂に傷かて終れり

次に全員「ミックス」にて紅白勝負を行ふ三人抜を以て優賞さす



林 (高女) ○ ○ ○ ○ ○ 八島先生

結局白軍の勝利に歸し優勝者を柴山氏とす
次に最も興味を以て迎へられたるを三十間遠射とす射場的な場の右方なる小山の麓に建て懸一枚大の悪鬼像の今や吾人に向つて喰つてかゝらんとせるを詣り今味方の軍勢七組に分れて是を順次に射落さんとする第一組の篠原氏先づ其左足を射第三組中田氏胸部を射て傷手を負はせ死物狂に尙も飛來らんとする篠原氏(四高)右手を射貫いて出鼻を挫き其他(五)北村氏(七)の佐藤氏(五)の吉浦氏或は左手に或は左足に打ち貫き敵の漸くひるむを見つて遂に(六)の柴山氏(高女)頭蓋を射て止めを刺しさしも獯猛の羅利も茲にドーと斃れたり乃ち凱歌を擧げつゝ第一講義室に打集ひ阿部部長より一場の挨拶あり次いで本日の戦功者に賞を授け茶菓を饗し閉會を告ぐ日西山に春かんとする頃なりき。

●安藤金澤藥學士送別會 (四月三十日)

春老いて初夏鮮鋭なる綠色金城々下に溢る、葉月の陰雨滴々として更衣の裳衣を濕ぶす夕安藤千秋君の祖道の宴を西町金谷館に開く、會者七十餘來賓として教授加藤靜雄氏あり、定刻午後三時となるや發起人總代石野金朝君の開會の辭あり、續いて藥三年生總代岡田一郎君の送別の辭、二年生總代神田與敬君の感謝の辭一年生總代山添君の送辭あり終りて安藤藥學士の答辭の謝辭あり引續き

- 送 辭 増 永 辰 治 君
- 所 感 谷 量 太 君
- 謝 辭 神 谷 蛇 劍 君
- 送 辭 吉 田 一 郎 君
- 感謝の辭 下 根 信 近 君

(校内雜報)

第十七卷 第六號

二二五

第七十七號

二五

- 全 宮 田 白 雨 君
- 全 田 口 英 一 君
- 別 辭 原 鑾 峯 君
- 別 辭 塚 田 浪 江 君

等ありて後加藤教授の祝詞的送辭ありそれより茶菓餘興に移る會員相君の『追分』宮崎君の『夕ぐれ』及び招員喜六齋の落語并に音曲、「パイオリン」、美弘軒東一氏浪華節あり、その間喜六齋の滑稽なる面貌と言は吾人の魂を去るの感あり又東一氏の士道鼓吹の浪華節は思はず拳し背に汗を結ばしめき。興益々湧きて悲痛に陥るの送別の宴も稍もすれば笑樂の會に化し去らんとするの時發起人の發聲にて安藤君の萬歳を大唱三呼して閉會せり、時正に七時に垂ます、

願るに氏が昨秋槐黄ばむ頃より我科脇坂教授の本に副手として止り給ひてより正に半星霜の間實に小さく大さなく陽さなく陰さなく氏の恵によりし事况微輕ならんや、然るに突然茲に袂別の悲を買う誰か惜別の情に堪ふる者ぞ、然れども徒に別を惜む將に男兒のなす處に非ず又保守の誹を免れず、説聞氏は郷里岡山縣に於て某校の爲めに教鞭を握らるゝと然とすれば大に慶し大に嬉び以て氏を送るべきなり、氏の謹直にして真面目なる實に稀に見るの好先輩なり然して氏の人格の吾人に好感情を興へし決して僅少なからざるなり、吾人氏を惜まずして何ぞ、乞ふ乞ふ、我藥學界の爲めに將た、我が校の爲めに大に自重せられ以て益々永遠に祝福を得られん事を聊か所感を陳して以て再び送別の辭とす。(四月三十日NTT記生)



通信

て當分研究を續け度勤務仕り候間十全會雜誌等は何卒當地へ御送付被成下候様御取計願上候尙今後共何分御引立の様願上候早々頓首

五月十六日

大阪西區京町堀三ノ廿三、藤本表方

小山田 基

●鬼頭先生通信 (醫四、高橋那欠郎君宛)

拜啓諸兄益御清適の段賀上候愚生出發に際しては遠路御見送り被下御厚志難有奉謝候乍御延引右御禮申上候去る土曜日曜兩度病院へ御訪れ被下候由生憎他出中にて拜晤の榮を得遺憾に存じ候未だ創業の際患者も少なく碌々相過し居り候御蔭を以て其後身体格別のこも無之候間乍憚御安意被下度候諸兄へ一々書狀不差上候に付乍御手数數謝意貴兄より御披露被下度願上候 敬具

五月七日

大阪市北區鍋笠町 回生病院

●森田齋次氏通信 (松原教授宛)

拜啓小生は去四月二十日に解剖學會へ出席のためハルン市より此のミュンヘン市に參り二十四日にて學會を終はり二十五日は市内を見物仕り今二十六日はウインに向け出發仕候終りに貴下の御健康を祈り申候

四月二十六日

ミュンヘン市獨乙帝國館にて 森田 齋次

●小山田基氏通信 (三十六年卒業、松原教授宛)

拜啓彌清勝奉賀候小生去る十六日より大阪府立高等醫學校病院産婦人科に

て當分研究を續け度勤務仕り候間十全會雜誌等は何卒當地へ御送付被成下候様御取計願上候尙今後共何分御引立の様願上候早々頓首

五月十六日

大阪西區京町堀三ノ廿三、藤本表方

小山田 基

●福田美明氏通信 (四十一年卒業、松原教授宛)

○富山通信。十日醫會の觀櫻會、母校出身者の大部を以て組織せる同會は去る四月十一日高岡に觀櫻會を試み同地の同業者と半日の清興を共にし木津樓に於て懇親會を催せり。

○北陸醫會出席者。第十三回北陸醫會出席者左の如し、堀米次郎、田上清貞、高田範圍、近郷重孝、長澤安弘、加納景成、城石健治、井本清吉、坂井茂、福田美明、重田稔、の十一氏なりき。(以上母校出身富山在住者) ●織田秀時氏開業。(三十九年)卒業後一年志願兵を了し後臺灣新竹病院内科へ轉じ敏腕を振われしが今回富山市殿町に於て内科にて開業の筈。

二

拜啓其後如何御消光被遊候や伺上候美明無事消光罷在候間御安神被下度候日々碌々馳け廻り居候當地には本日午後七時より公會堂に於て醫師會臨時總會開催有之候、通常衛生談話會を隔月一回宛市内に開く件、會員集會場設置、會則改正、死亡會員追悼會開催の件を議する筈に候、尙母校出身者にて役員當選者は市醫師會副會長、堀米次郎氏、評議員水上峯太郎氏長澤安弘氏高田範圍氏井本清吉氏、理事に片山良作氏、縣醫師會議員としては堀米次郎氏田上清貞氏高田範圍氏の三氏に有之候

三

拜啓御多忙の由御身如何に候や伺上候小生碌々飛廻り居候當地には醫海の

元老蓬美昌保翁立候補せられ目下職陣堂々事に當り居られ候去る日長非敬孝君(四一)出當の折御出被下久々にて北京の土産談に頗を解き申候氏は令弟逝去せられ歸國せられ目下高岡の故里に滞在中の由に候氏の如きは實に母校出身者中の異彩者に有之候、福村深敬氏(四二)も來訪せられ候氏は婦貢郡五福村に開業今は立派なる國手となり萬事生等と異り滑脱の者に候來る二十日に當市協同醫會開催數多の講演有之旨に候先日は患者難有御禮申上候先は時候御見舞迄匆々頓首

四

拜啓皆々様如何御消光被遊候や伺上候若葉かくれに咲く卯、流るゝ小川、歌ふ鳥、實に膿艶なる心を起さしめ候此時、此折、不絶念頭に浮ぶは生れ故郷の醫局に候、師の君は如何に、學友は如何に、看護人看護婦は如何に、晴れやらぬ五月雨の天にあられど盡きせぬ聯想の雲はこれ、建在なれ!!

●阿波加憲吉氏通信 (四十四年卒業。松原教授宛)

拜啓時下春暖の候先生には御變りも御座なく候や御伺申上候小生今度佐々木先生の御厚意により急に當地岐阜病院に参り(佐々木先生御令兄御經營創立後滿十五年)日々勤務致し居り候間御休心なし下され度候

滯澤中は一方ならぬ御厚情を蒙り猶種々御示導下され無能の小生も御蔭によりやゝ人並に歩調を並べ得る様相成喜び居り候かこれ一に先生始め諸先生の御惠恩と難有く御禮申上候

先生より當地状況知らせよこの御言も有之候故日淺く十分承知まつらざれと拙筆を走らせ申候

當岐阜病院は前述の如く佐々木先生御令兄を院長に戴き副長(乙種醫學校出)醫員二人(一人は慈惠醫專出身)藥劑士三人助手一人看護婦見習共十一人有之内部に分科的ならず(當市一般分科的ならず)八百屋式になし居り外

來日々五六十名有之候大抵朝八時出勤午後四時退勤出政居り候か帝直は副長醫員にて交々なし居り候病室は本院より一丁隔り養生園と申し室三十餘現今入患者十五六名に候始め當病院に参り困難を感じ候は處方罫字にて殊に用途にて署名を付しあるものさへ有之候

當地には其他縣立病院及小坂病院(名古屋醫專出身にて占領)有之候縣立病院には外科に駒田兄(四十一年度卒業小生堀川兄の紹介にて始めて面接せる君)内科に柳原兄(三十九年度卒業高橋兄(四十四年度卒業)勤務なし居られ其の御厚意により病院も參觀仕り候本院は内外婦人科眼科に分れ居り候か外來入院共に少なく勿論興味ある「アルバイト」も無之(多くは名古屋に出す)「ツベルクリン」注射も近時始めて聞及ひ申し候小生生來の茶目坊にて已に縣立病院在勤諸兄と彌次りの交換もなし居り候猶當地には四十年卒業の淺田耕造氏も耳鼻咽喉科にて開業なし居られ候(其他は知らず)當地は以上の如く金澤醫專出身も大分ある故機を利用して出身會開催せん希望に御座候

當地は御承知の如く山國にて山峰市中に突立致し居り候名古屋へは一時間餘にて参るべく長尾川鵜飼を始め名和昆蟲所谷汲觀音養老瀧金華山城跡等名所舊跡多く杖を引くに好適地と存じ候先生には御序あれば當地に御たちより下され度願上候

先つ以上の如きものにて只拙筆を走らせ候事御許し下され度候今後も何分さも宜敷御示導御願上候乍憚御序の節石川兄始め石譯兄寺尾兄萩原兄に宜しく御傳下され度候 頓首

阿波加憲吉

●田中信一氏通信 (四十四年卒業。松原教授宛)

拜啓時下春暖の候に御座候處先生には愈々御健康之段奉賀候さて小生昨

敦賀港結城敦賀病院にて

田 中 信 一

年十二月より當郡立敦賀病院に奉職する身と相成候處何分凡ての事柄皆々始めての事とて心配致し居候へしも當院長の深切なる御教示に依り今日迄些の失敗もなく勤務罷在候小生卒業後早五ヶ月も経過致し候も母校の事を片時も忘れ申さず是非一度罷り出で諸先生に御挨拶もし新築校舎も拜觀致度存居候處其時期を得ず御無音に打過ぎ候段平に御容赦被下度候

御承知の如く當病院は至極小なる病院には御座候へ共小生來院當時より滿員状態に候然し冬季は外來患者は少く往診澤山有之候殊に夜中呼び起こされ雪中寒風を犯して出掛け申候患者は重に敦賀郡と三方郡の二郡のものにて近頃は平均毎日四五十人に御座候敦賀地方も肺結核多數にて随分驚く程の咯血患者に出合ひ申候當院には無蛋白「ツベルクリン」注射致居候奏効如何は少數なれば充分知るを得ざれども末期患者二名死亡致し候へしも輕症者、中には重症患者なるも自覺的他覺的に輕快致候町内には尙ローゼンゼンバツハ氏「ツベルクリン」を注射しつゝある人も御座候入院患者中別に珍らしき疾病は無之候先頃自殺未遂の患者にて日本髮剃を以て甲狀軟膏全部切斷し聲帯等が震動する状態を見受け珍ら敷感し候然し肺水腫氣管支カタル合併致し一週間位にして死亡仕候又肥厚性鼻炎の患者にして小腦性「アタキシイ」のある患者を實檢仕候是れ果して小腦性のものか官能性のものか不明に付終りに其既往症等を記し申候間御繁務中甚だ恐れ入候へ共何卒御知らせ被下度願ひ申候

町内には當病院の外十五名許の開業醫有之各醫師間の親睦を計る爲め友信會なるもの有之毎月一回會合して互に氣焔を吐露致し居候
敦賀港は北國尤一の港とて今後大に發展するこゝ存候露國人は屢々來院致し候是迄到る處の外國人來院する由に御座候敦賀灣の景色は特別にして能登海岸以上と存候此に金ヶ崎より灣内を遠望せる圖一枚御送り申候間是非一度御來遊の程御待ち申候右々々の御無音を嗚謝し旁々御依頼申上候草々敬白

草々敬白

●石譯太作氏通信 (四十三年卒業、松原教授宛)
前畧小生は先月二十日開業以來昨日に至る迄新患の繰延數百四十六毎日來たる患者の繰延數三百七十八人にて一日平均十五人強に當り暇でもなく餘り忙かしくもなく暮し居り候まゝ御安心被下度候先は御願旁如斯に御座候草々不盡
五月十四日 越中氷見郡藪田村 石 譯 太 作

●寺尾敬三氏通信 (神經科醫局宛)
謹啓在澤中は一方ならざる御懇情に預り奉深謝候誠に在院中は各位の御懇切なる御示導と隔てなき御交誼に依り樂しく研究し得られしを心より感謝致候其後雨の夜風の日も常に念頭に浮ぶは我親愛なる神經科醫局なるべく候尙此後とも此樂しみを御分ち被下度祈上候小生の非才碌々として半歳を崇高なる醫局に過したるかを思へば自ら慚愧に堪へざるもの有之候此後は我敬慕をく能はざる恩師の手づから寫したまはりし寫眞を掲げて唯一の奮勵の資に供すべく候出發の際に親しき送別の會を御開き下され厚く御禮申上候先生の慈愛溢るゝ御言葉を承りては誠に感涙にむせび候
尙出發の節は雨夜殊に遠路御見送りに預り御親切身に浸みて嬉しく厚く御禮申上候途申無事岐阜に一泊し昨九日歸省致候乍俾御休神被下度先は右不致取御禮申上度斯如に御座候 頓首

●土井榮幸氏通信 (萩原忠氏宛)

拜啓晩春催倦意相踵々好時節學兄如何遊され候哉小生は本年二月より當院に勤務平凡至極の生活に其日々を送り居り候。だが身体は健全でヒョコ／＼して居るから御安神あれ時候見舞は之で切り上げて要談に移る實は此病院の眼科に一人醫員入用である金澤に適當の人物はあるまいか俸給は廿二枚で始まり漸次昇る患者は日々七十乃至八十人で充分研究が出来るのだ志望者があれば可及的火急に御世話な願度候御返事を待つ、同窓諸君によるくし御傳聲願上候不一

五月三日

土井氏は四十四年度卒業にして目下兵庫縣立神戸病院に奉職中なり

●福田美明氏通信 (石川精一氏宛)

拜啓益々御清祥の事と奉賀候小生無事御安神被下度候當地の一二近況申上候富山協同醫會通常會、二十日午後七時より富山市公會堂に於て開催出演者左の如し(ドクトル田上清貞氏は時間の都合次會に延期)

一、子宮筋腫(アデノミオーム)ノ一例

重田 稔(四十三年度)(病婦)

一、子宮癭腫ノ一例(二十四才ノ婦人)

藤本 敏(醫學士)(病婦)

一、珍奇ナル剖檢ノ一例

一、(ヨハ)ニ就テ

一、神經衰弱症

高木安治氏(赤十字病院内科)赤十字社總會へ列席の爲め支部病院より上京を命ぜられ十八日午後七時三十四分當驛出發約十日間滯京の由、(魚津の唇

福田美明(四十一年度)(開業)

氣樓を見に御出なさい日は風なきくもり勝ちの日和に出る由
五月二十一日認

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

叙任及辭令

●宮内省

四月三十日

叙正七位

藏光長次郎

●金澤醫學專門學校

四月二十五日

金澤醫學專門學校醫學士 浦 晴 二

婦人科學產科學副手ヲ囑託ス

月手當金貳圓給與

四月三十日

依願履ヲ解ク

五月二日

金澤醫學專門學校藥學士 安藤 千秋

堀 正 平

體操副科劍道教授方ヲ囑託ス

月手當金五圓給與

五月七日

金澤醫學專門學校藥學士 林 精 一
雇申付(月俸金拾六圓給與)
藥學科副手ヲ命ス

五月十三日

金澤醫學專門學校醫學士 那 谷 興 一
精神病學副手ヲ囑託ス
月手當金貳圓給與



入 事

●高野宗重氏 (四十年卒業)在校中雄辯家として知られたる氏は卒業後宇都宮病院に勤務されしが昨年辭して魚津に開業され斯界の爲め盡瘁されしが去る五月十六日午前二時突然病を得て逝去されたりと茲に哀悼の意を表す。

●齋藤友一氏 (四十年卒業)昨冬來眼科の醫員として患者の診察と治療に従事されしが今回辭職の上東京都に遊學河本博士につき研究さる。

●加瀬順之助氏 (四十四年卒業)卒業後内科二部に研究中なりしが今回福井市河野病院の聘に應じ去る八日就任せらる。

●小幡一志氏 (四十四年卒業)卒業後内科一部に研學中なりしが

今回石川縣防疫官補に補せらる。

●居所不明者 (舊清國公主領滿鐵病院)
●宮井 勇君



會 告

●自明治四十五年四月二十七日校外特別會員會費調書
至全 年五月二十三日

金額	期 限	氏 名
金五圓	自四十四年度五ヶ年分	輕 部 修 一 君
金參圓	自四十四年度三ヶ年分	矢 原 準 一 君
金參圓	自四十二年分	足 立 謙 君
金五圓	自三十九年度五ヶ年分	田 上 清 貞 君
金三圓	自四十四年度五ヶ年分	奥 山 正 雄 君